

これから4年間、地理科での生活をささえてくれるものではないかという気がした。後で提出しなくてはならないレポートのためではなく、自分の勉強（学問などとはおこがましくていえぬが）のため、血となり肉となるものだと思ったのである。

2日目も相変らずの曇り空。前夜は、大学院のお姉さま方とトランプに興じた人、映画を見た人などいろいろ。さてこの日は、まず紅葉台へ。その登りの道の苦しかったこと！そして、下りの途中で見た青木ヶ原の樹海は壮観の一言に尽きる。そのほか午前中は、溶岩が冷えて固まる時に、ガス体が噴出したりしてできた風穴の一つである富岳風穴、富士山麓の湧水を利用した猪ノ頭養鱒場、それから白糸の滝へ。昼食をとった後、滝と滝つぼを見学して、悪天候のため予定を変更して畜産試験場へ行き、いろいろと説明を聞いた。（そういえば、その朝にしばったばかりだといっていた牛乳は、おいしかったなあ……）それから一路東京へ。7時頃、みんな元気に新宿到着。

初めての巡検で、要領がわからず、1泊2日でわりとあわただしい感じだった。それにお天気のせいで、宝永山や大沢崩れを見に行けなかったのが残念だった。富士山の裾野なんかを走っていると、「日本も広いなあ」という気がすごくする。巡検は、もちろん勉強なのだと思うが、いろいろな土地へ行って、いろいろな場所を見てまわれるのは楽しいことだ。（ただし、あとのレポートはなかなかこたえるけれど……。）

（浅海先生指導 1年 岩田 美佐子・浜野 桂子）

甲府盆地巡検（10月3～6日）

前期試験の終わった翌々日の10月3日、私たち3年生は甲府盆地巡検に出発した。主なテーマは扇状地の農業的土地利用と農業集落の立地についての考察である。

まず、10時50分に中央線勝沼駅前に集合。あいにく小雨がパラついていたが、あたり一面にぶどう畑が広がっているのに驚く。ぶどうの丘センターで、所長さんから概況を話していただく。勝沼のぶどう栽培は千年近い歴史を持っており、現在は耕地の98%が樹園地であるという。生食用のほか、ワイン製造や観光農園の経営も盛んであるとのことであった。昼食後、マイクロバスで一宮町へ。ここは、勝沼のぶどうに対して桃栽培が特色であるが、町役場の方の話では、最近はぶどうが伸びてきており、桃と半々ほどになっているという。その後、山梨大学工学部附属の無機材質研究所と発酵研究所を見学する。前者は、水晶はじめ人工貴金属の研究所、後者は、ぶどう産地の特色を生かしたワインやブランデーに関する研究所である。フランスから取り寄せたというブランデーの蒸留装置や、地下に貯蔵されたたくさんのワインが印象的であった。甲府市内の宿舎に泊まる。

4日。9時に旅館を出、マイクロバスの中から翌日調査を行う集落を観察しつつ、昼ごろ白根町役場へ。白根町は、御勅使川の氾濫による扇状地に位置し、戦前は養蚕地帯であったが、戦後果樹が急増し、桃、ぶどう、サクランボなどの果実の町となっている。午後は、市之瀬台地を訪れ、その地形を観察した後、富士川砂防工事事務所の方の案内で実際のダム工事現場を見学。私たちにふだんなじ

みのない砂防という事柄に対して認識を深めることができたのは収穫であった。

さていよいよ5日、集落調査の日である。どちらかといえば受身一方で、先生方に頼りっ放しであったこれまでの巡検と違い、主体的に自らが踏み出さねばならない。皆が皆、期待半分、不安半分の心持ちで臨んだと思う。

2人1組で8班編成、3班が一宮町、5班が白根町へ調査に入った。時期も時期、ちょうどネオマスや甲州種の収穫期と合わさって豊かに色づいた一面のぶどう棚が、私たちを歓迎してくれた。共選所を訪ね、組合長さんの話を聞き、いくつかの家庭を戸別訪問するというパターンが多かったと思うが、どこへ行っても、ぶどうの歓待を受けてお腹をふくらませて帰ってきたという、嬉しい悲鳴をあげたグループもあった。人々の心尽くしと暖かみを至る所で感じ、かつ、自分の手と足と頭をわずらわせながら実際にフィールドで学ぶことの大切さというものを、それなりに得ることができたと思う。と同時に、質問を続けていくうちに、自分の不勉強さ、未熟さ、それによるもどかしさといったことを、誰もが痛感し、反省したのではないだろうか。

いずれにしても、初めての体験ほど素晴らしいものはない。夜のミーティングの際の皆の報告の語り口が、いつになく新鮮で、何と生き生きとしていたことか。

最終日。前日初めて抜けるような青空をみせた天気も、この日は、又、曇りがち。時折小雨がパラつく中を、まずは、釜無川信玄堤へ向かう。戦国時代の偉将信玄が、武芸だけではなく、治水といった地域の人々の生活を守ることにもたけていたことを知り、改めて彼の偉大さを思う。甲府駅前にどんと構えていた信玄像が頭をかすめ、1人で納得する。この後、ボーリングを2ヶ所で試みる。これも初めての体験であり、今まで机上の知識でしかなかったものが、現実と重なり、不思議な気がする。巡検の締めくくりは、サントリーの山梨ワイナリーへ。見学の後全員でワイングラスを片手に、ほろ酔い気分で記念撮影をパチリ！

得ることの多い巡検であった。思い出の多い巡検でもあった。しかし、これすべてご指導いただいた式・井内両先生始め、多くの方々のお力添えによるものであり、ここに改めて感謝の意を表わしたいと思います。

(式・井内先生指導 3年 久保田 美子・磯部 則江)